

成果と課題

1 各教科・領域の「見方・考え方」について

2つの実践で設定した各教科の「見方・考え方」は以下のとおりである。

社会科：地域で受け継がれてきたもの（第4学年）

…事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を見出す。

算数科：三角形と四角形（第2学年）

…図形の構成要素に着目させ、身の回りの図形を自分で判断し、分類する。

2 「見方・考え方」を働かせて問題解決するための手立て

（1）成果

○実際に綾子舞に携わっている人の資料や動画を提示することは、綾子舞に関わる人の思いをより確かに読み取ることに有効に働いたと考える。

社会科 地域で受けつがれてきたもの 第4学年

綾子舞に携わっている人の資料や動画を提示する前は、C6、C7、C8の予想のように、綾子舞に関わる人の気持ちに寄り添った意見ではなく、第三者的な意見が出ていた。しかし、提示した後は、C11、C12のように、当事者の思いに迫る発言が見られた。

○三角形、四角形でない図形の提示とペアづくりの活動による、図形の構成要素という見方の意識付けの有効性（算数科 三角形と四角形 第2学年）

算数科：かけ算（第2学年）

さまざまな特徴を持つ形を見て、三角形・四角形・そうでないものがあることに気付くことができた。のような形かを復習した。板書にあるカードを見て、初めは全てが三角形・四角形であると感じていた児童もいたが、友達の意見を聞いて、普段何気なく見ていたものの形を「三角形・四角形だと思っていた形はそうではないかもしれない」「どうしてちがうのだろう」とじっくりと観察していた。友達の意見を聞くことを通して図形の構成要素に着目させることができたと考える。

○グループでの話し合い活動の場の設定を行うことが、自分の考えを改めて見直そうとする姿につながった。算数科：三角形と四角形（第2学年）

児童の中には、グループの仲間の意見を聞いて自分の意見が変わったり、なるほどと納得したりしていた児童がいた。意見が変わるたびに自分のプリントを書き換え、頭の中を整理することで、グループのワークシートに書き進める様子が見られた。

（2）課題

●前時の学習で三角形と四角形を押さえていたが、どこが直線なのか理解していない児童がいた。一つ一つの授業でポイントをしっかり押さえると理解が深まる。

算数科：三角形と四角形（第2学年）

●綾子舞に関わる人の思いを読み取ることができずに固まっている児童の姿も見られた。資料を拡大して見やすくしたり、動画を繰り返し見たり、一時停止したりと、教師が資料や動画の見せ方をより工夫する必要がある。

社会科 地域で受けつがれてきたもの 第4学年

子どもが各教科の見方・考え方を働かせて問題解決をしていく姿の表出には、教師が見方・考え方を設定したら、その見方・考え方を働かせた姿とはどんな姿なのかを具体像まで明確にもつ必要があることが分かった。また、見方・考え方を働かせるためには、その時だけでなく、繰り返し教材のポイントを確認したり、教材の提示の仕方を工夫したりすることによって、より子どもが見方・考え方を活用して問題解決していくことへつながっていく。そうすることで、どの児童も見方・考え方を働かせているかや、本時は目標が達成されたのかを教師が見取ることができるようになる。